

第229回 「元気に百歳」クラブ・俳句サロン「道草」の句会開催

令和6年2月9日、お正月早々からの鬱々とした気分は、2月を半ば経過しようとしている現在でも、依然として変わることはありません。能登半島大地震の復活作業は障害になることが多く、苦しい日々を重ねています。またロシアのウクライナ侵攻問題や中東のイスラエル・ハマス闘争も、情報だけですが、北朝鮮も混入してきて利を争い、和平交渉が進みません。日本では自民党政治家の一部が、資金集めのパーティに絡む脱税問題や選挙違反問題が、さらに深刻な状況にあるといっても過言ではありません。とはいえ、どれもこれも全て現代人の私たちが蒔いた種です。他人事ではなく、私たちが解決しなければ答えは出ません。

そして、冒頭から私事で恐縮ですが、2月9日の予約のとり方が悪く、朝一番に歯科クリニックに立ち寄り、句会に向かうという要領の悪いことをやらかしました。加えて句会が始まる前から憂鬱だったことは、提出している本日の句が、初春の「春が来た喜び」を表現した句のつもりとはいえ、全句に「春」の字を並べるという無様というのか、芸がないというのか、大いに反省しております。嗚呼！

・・・愚痴はともかく、本日の句会のご報告をします。

○ 投句参加をして下さった方々のお名前（15名）

芦川創風さん、板倉歌多音さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、坂上まさあきさん、高瀬荻女さん、辻 柴楽さん、手嶋錦流さん、中島憧岳さん、原 晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然。

○ 対面句会に参加された方々のお名前（7名）

創風さん、和感さん、月草さん、晶如さん、傘吉さん、多佳さん、白然。

今回は先月まで続いていた全員投句参加の連続記録が4か月で途切れしました。先月是不慮のお怪我をなさった方もあり、このところ寒かった日もありましたが、残念です。全員参加はまた続けましょう。では、いつものように今週の優秀句を下述します。

○ 今月の優秀句（投票多数句）

今月の最多天賞獲得句は、天賞3票を獲得した創風さんの句「雨戸あけ春の光が満つる朝」でした。そして得票総数も4票で、最多得票賞（☆印）の3位でした。次に荻女さんの句「梅の香やもの忘るるを笑ひ合ふ」が、天賞2票、最多得票賞（☆印）は6票を獲得、これは1位でした。次に歌多音さんの句「スーパーの菜花ひと束活けにけり」が、天賞2票、最多得票賞（☆印）が5票（2位）でした。以下、天賞1票句、最多得票賞4票句（3位）は下述の通りです。

◎『雨戸あけ春の光が満つる朝』	創風	天3☆4
◎『梅の香やもの忘るるを笑ひ合ふ』	荻女	天2☆6
◎『スーパーの菜花ひと束活けにけり』	歌多音	天2☆5
◎『東風微か喧嘩友達あ連れて去る』	まさあき	天2㊦3
◎『徳本の峠超ゆれば春の山』	憧岳	天1㊦3
◎『ピアス刺す耳に薄ら日針供養』	晶如	天1㊦2
◎『やはらかき春日にそつと手をかざす』	月草	天1㊦2
◎『夕闇に沈丁重く香りけり』	晶如	天1㊦2
◎『待春の庭の雀と話す朝』	荻女	天1㊦2
◎『あいつでも恋をするのか猫の恋』	多佳	天1㊦1
◎『散り敷くや喪家の庭の紅椿』	傘吉	☆4
◎『滑舌の悪くなりきて春寒し』	多佳	☆4
◎『春一番盤より発する駒の音』	清助	☆4

上述の13句を鑑賞しましても、暮らしの中に感じられる「春の光」、「梅の香」、「菜

の花」の句が、皆さんの関心の的であったことが伺われます。ただ「菜の花」の句については、字余りになるので、都合上「菜花」と使われたのかなと思いきや、何と「菜花」には「食用にするあぶら菜の葉やつぼみ」という意味があり、句意は「食用で買ってきた一束の菜花を見て、これは初春そのものという感に打たれ、早速、そのまま活けたのですよ」というものでしょうか。芭蕉の言う「風雅の心」とは、作者の「食べるのは後、先ずは活けて春の美を鑑賞しようという心」を言うのでしょうか。

歌多音さんの句「スーパーの菜花ひと束活けにけり」は、まさに風雅の一句であると思います。季語は「菜花」、天賞を二つ獲得し、読者から優秀句5票の高得票を獲得しました。歌多音さんの風雅な気持ちに拍手喝采です。お見事でした。

今月もかくして取り上げるべき事項を持つ句が幾つかあります。次の句の観察から始めることにします。先ずは晶如さんの句です。「ピアス刺す耳に薄ら日針供養」は、天賞一つ、2票を獲得しました。季語の「針供養」とは、折れた針や曲がって使えなくなった針を、こんにゃくや豆腐に刺して供養をするという神事で、東京周辺の針供養日は、今年は2月8日だったとか。作者はこの針供養とピアスの針と対比させました。そして中七に「耳に薄ら日」としました。外出時の鏡の前で、ピアスを耳にしながら「そうそう、今日は針供養の日だったわね」と。針への感謝の気持ちが芽生えたのだと思われます。

今日の晶如さんの句会への心構えとして、もう一つ、学習しなければならないことがあります。提出された3句に使われている季語のことです。この句の季語「針供養」のほかに「沈丁花」と、あと一つは「春北風」です。沈丁花の句は「夕闇に沈丁重く香りけり」という意味深長なる句ですが、解釈は略させていただきます。北風は「春ならい」と発音し、「春ならひ」と書きます。春に強く吹く北風のことです。北風ですからまだまだ冷たく、春疾風(はるはやて)とも言います。春ならいの日、風は吹くけど晴れる日が多いとも言われます。句会に向かう心の在り方、反省するところ大です。

次に創風さんの句「雨戸あけ春の光が満つる朝」です。季語は「春の光」、歳時記に見る例句では「春光(しゅんこう)」と使われることが多いようです。この句が読者の共感を得たのは、上五の「雨戸あけ」ではないでしょうか。これは単なる毎日の雨戸明けではなく、寒い冬という雨戸も明けています。そして「春光の満つる朝になったよ」ということでしょうか。気持ちが晴れ晴れする朝の雨戸明けではなかったでしょうか。天賞としての読者の共感を得ました。天賞を三つ獲得し、優秀句として4票を獲得しました。

次の句はまさあきさんの句「東風微か喧嘩友達連れて去る」です。季語は「東風」、句意は「もう少し吹いても良いのに、東風は微かにしか吹かない。なのに、悪口は叩いても仲良しだったし、よく一緒に飲んだ大事な友を、連れ去ってしまった。とにかく何と言っても寂しいよ」(別途、天賞推挙のコメントに「東風は梅花を咲かせ、雪を溶かして春を連れて来るのに、なんで友を連れていく」とありました)というのでしょうか。上五の「東風微か」と記すことで、読者は菅原道真の句「東風吹かば句起こせよ梅の花主なしとて春な忘れそ」を想起し、それだけでも寂しくなる句ではないでしょうか。ただ、下五の「連れて去る」は、「連れ去れり」もしくは「連れ去るる」では、如何でしょうか。

対面句会への出席者は、今回も7名と少ないものでしたが、ディスカッションは面白いものがありました。句の中に「恩師逝く時の巡りに雨水沁む」(錦流さん)と「亡き友と師浄土で句会春時雨」(一光さん)がありました。あれから丁度一年が経過しますが、一緒に道草で研鑽に励んだ仲間です。改めましてご冥福をお祈り申し上げます。来月は仲春です。季語を学び、句をよく練り、文法的な間違いも起こさず、尚且つ魅力的な句を投句したいと思います。出来るかな……。では3月にお会いしましょう。

白然記